



生活文化



広瀬幸平

6
まいん

こあしたにげきじょうあと 小足谷劇場跡



明治23年(1890)開坑200年祭に撮影 別子銅山記念館所蔵

銅山にこだまする
一千人の歓喜

こあしたにげきじょうあと
小足谷劇場跡は、小足谷小学校跡に並んである高い石垣の上に、土木課と山林課の事務所を兼ねて明治22年(1889)に建設されました。

廻り舞台もあり、収容者数は1,000人を越える大規模な施設でした。



100メートルにも及ぶ石垣は城壁のよう



明治23年(1890)撮影 別子銅山記念館所蔵

別子開坑200年祭記念写真 小足谷劇場の石段にて

前列左より小池鶴三、久保盛明、広瀬幸平、家長友忠、広瀬坦、光村利藻(和服姿)

山神祭が開催される毎年5月の3日間は、京都や大阪から芸人を呼んで歌舞伎や芝居が上演され、銅山で働く人たちにやすらぎを提供していました。

当時、地方の町中においても珍しい劇場が、海拔1,000メートルを越える山中に現れ、都会から有名人が来ていたことは大変な驚きです。

別子銅山における福利厚生施設の充実ぶりは日本一ではなかったでしょうか。



これな～んだ？

これは小足谷劇場跡に続く階段です。
何段あると思いますか？

答えは、裏にあります。

